

アンバサダーライダー・高田茉莉亞と佐々紫苑の

欧洲馬術レポート

週刊 Gallop 2019年7月号掲載



明松寺馬事公苑所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では4年連続で学業優秀賞を受賞。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

実は私、整体師の施術というものが効いているのかいないのか、手応えを感じることができず、今回も半信半疑でした。ところが、先生は馬体を触っただけで、普段騎乗していて感じる癖や問題点を的確に指摘するのでびっくりしました。続いて、手のひらを患部に当てて、ゆっくりともみほぐしていきます。初めは身体を触られて嫌々していたQUANDOも、だんだんと目がとろ~んとして、気持ち良さそうに身体を預けていました。仕上げに電気パッドを当ててもらい、20分ほどで施術は終了。これを2週間に1回のペースで続けました。施術後は後肢の踏み込みも大きくなり、整体の効果がはっきりと感じられました。

次の予約をしようと部屋をのぞくと、何と馬専門の整体師の前に横たわる私のボス、エイデン（もちろん人間です、念のため）の気持ち良さそうないびきが…。これでQUANDOもエイデンも、週末の試合でいい飛びができるることは、間違いないんですね。



「はい、脚上げて～」。仕上げは背中の電気パッドです
(本人提供)

馬耳蘭風

—オランダ奮闘記—

佐々紫苑

Shion Sassa



以前、馬の歯医者さんの話をしましたが、今回は馬の整体師さんを紹介します。私の愛馬QUANDOは15歳のベテラン師匠。まだまだ元気ですが、右の腰が張りやすく、馬体のゆがみから駆歩での回転、手前変換のときなどに痛みを引き起こし、思うように脚が上がらなくなってしまうときがあります。やはり、競技馬として無理なく活動を続けていくためには、より丁寧な体のケアが必要なのです。

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亞

Maria Takada



ドイツの試合会場へ行くと、よく見る写真のような光景がありました。たくさん並ぶ『馬運車』と呼ばれるトラック。馬を運ぶために特化して作られたトラックです。形も、色も、載せることができる頭数もさまざま。日帰りの試合では、出番待ちの馬たちがこの中でおとなしく待機しています。

馬運車には、鞍や頭絡など、馬具を置くスペースもしっかりと完備されています。また、人間用の居住スペース、シャワーやトイレ、そしてキッチンまで完備されているものまであります。

日本でも、高速道路を走っていると「競走馬輸送中」や「競技馬輸送中」と書かれた馬運車をたまに見かけますが、ドイツでは日常茶飯事！ それもそのはず、一年中、毎週のように各地で試合が行われているからです。そして、どこの試合会場も観客でいっぱい！ どこからこんなに人が集まつくるのか不思議なくらいです（笑）。

ようやくこんな光景にも慣れてきましたが、まだまだ新たな発見がありそうです。



馬運車から「出番まだかな？」とひょっこり顔を出している馬もいます
(本人提供)